

インターバンクの声（2014 年 11 月 5 日）

3日のニューヨーク市場から昨日の東京市場早朝にかけて114円台までのドル上昇となったドル円相場も、その後は113円台前半まで下押しされる相場となったが、これでドルがピークを打ったと考える向きはまだ少数派だろう。今日の東京時間に再び上値を試す動きが出るとは想定し難いが、金曜日の米雇用統計を前にしてのADP雇用統計やISM非製造業景況指数などの発表があるニューヨーク時間には、指標の結果次第では荒い相場展開になる可能性もある。ただ、この所ドル円相場の派手な値動きの陰で存在感が薄れていたユーロの動向が昨夜から俄かに騒がしくなり始め、欧州中央銀行（ECB）理事会が開かれる木曜日前後までユーロの値動きにも注意が必要だ。どうもECBの理事会メンバーでもあるユーロ圏各国中央銀行総裁の間でドラギ総裁の運営方針に対する不満が高まっているらしい。不満の発端となったのは、各国中央銀行総裁の間で具体的な数値は公表しないと合意していたECBのバランスシートを、ドラギ総裁が事実上の規模目標値を発表してしまったことにあるようだ。ドラギ総裁が一部の各国中央銀行総裁とはうまくやっているが、その他の総裁とはコミュニケーションが取れていないことも背景にあるようだ。ユーロも節目と捉えられている1.25ドルを一旦割り込んだ後だけに注目される局面だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。